

北海道労働局が保育所に立ち入り調査 82%に是正指導

北海道労働局は、管内の220の保育所に立ち入り調査を行った結果、82%にあたる181の保育所で法令違反を是正指導したと発表。法定労働時間や労働条件の明示、割増賃金などにかかわる違反が特徴となった。衝撃的な

結果に関連してNHKニュースが福祉保育労働者のインタビューを放映するなど、反響が広がっている。

法令遵守と大幅賃上げを掲げた春闘で、職場改善を求める組合の力が問われている。

3.11 ~あの日から3年~

現地レポート・宮城支部

今も津波に流された人たちの遺影・遺品が置かれる名取市・閑上小学校体育館。時計は地震発生時刻で止まったままだ



東日本大震災から、3年になろうとしています。「あの日」からこれまで、被災地はどう変わったでしょうか。

私たちはこの3年間、たくさんの傷を抱えた声を聞いてきました。

奪われた「当たり前の日常」「大切な人たちとくらすこと」それらを取り戻すまで、支援の力は必要とされています。

東日本大震災 失われた命・くらし——風化させない



東松島市大曲浜地区・公立大曲浜保育所の跡地周辺。保育所の面影はなく、更地のまま放置されている



震災前の女川町



震災直後の光景
津波のあとが残る



震災から1年9か月後
(2012年12月)



震災から2年8か月後
(2013年11月)

「復興」とは「当たり前」のくらしを送る権利を取り戻すこと

2020年に東京で行われるオリンピックが「復興オリンピック」と騒がれて

復興名目の東京五輪なのに被災地に復興資材人もこない

驚くほど静かに、そして残酷に、3年の月日は流れていきました。

町名の7割が消失したという女川町。港や、かつてあった場所はかさ上げ工事が、淡々と進んでいます。

東松島市大曲浜保育所跡地。3年前まで聞こえていた子どもたちの声は、どこにもありません。

名取市閑上小学校。体育館には、今も津波に流された人たちの遺影、遺品、ランドセルなどがおいてあります。

驚くほど静かに、そして残酷に、3年の月日は流れていきました。

復興名目の東京五輪なのに被災地に復興資材人もこない

2020年に東京で行われるオリンピックが「復興オリンピック」と騒がれて

復興名目の東京五輪なのに被災地に復興資材人もこない

驚くほど静かに、そして残酷に、3年の月日は流れていきました。

町名の7割が消失したという女川町。港や、かつてあった場所はかさ上げ工事が、淡々と進んでいます。

新しく家を建て新たな生活を始められる人がいる一方で、いまだ仮設住宅に住

これ以上命を脅かされることがある

保育所も高齢者施設も障害者施設も、入札が不調に終わりで建てるのができません。

仮設住宅では要介護度が上がった高齢者や、被災した子どもたちが入所できる施設を待っています。

「私たちのような思いは、もうさせたくないんです。」2月、宮城県内で行われた集会での日和幼稚園保護者の話です。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

「復興」とは「権利」を取り戻すことです。当たり前の日常を送る権利「生きたいと思う場所で、大切な人たちと生きていく権利」。

まんがタイム



福祉の風

福岡支部障害者プロシエクトは、昨年末福岡市に要求書を提出。その要求書にもとづく障害者

福祉課との交渉を2月13日18時半より行った。

障害関係の組合員17人、保育分会から16人、地本から2人、共産党福岡市議3人の参加があり、当局は8人の担当官で対応した。

自らの賃金実態を表にして、この水準での生活の展望は今後どうできるのか。

利用者の通所状況を1年分の表にして、報酬単価の不十分さを訴える等、創意工夫した交渉であった。

しかし、市は「国の制度の問題ですから」と、地方自治体ではなく、国の支店のような回答を繰り返す。

これに対し、これからどう独自性を持った自治体の回答へと迫っていかねばいかを強く思った。

福岡市との交渉に、田川市のつくりの里分会からも3人参加。昨年の全国交流集会実行委員会からの交流の継続が見られたことは、今後自治体へのとりくみを進める明るい材料に見える時間だった。

(白石)